

## 第12回コンクリート技術研修会

日時：2023年9月29日(金)13:00~17:00

場所：サンピアセリーズ 高知市高須砂地 155

主催：高知県コンクリート診断士会

共催：(公社)日本コンクリート工学会 四国支部・(公社)高知県土木施工管理技士会

参加者：99名内女性4名

|   |   |
|---|---|
|    | <p>挨拶：原田 隆敏<br/>高知県コンクリート診断士会会長</p> <p>関係各位また講師陣のご尽力により、第12回の研修会を開催することができました。当会は2008年に20数名で発足、現在技術顧問3名、特別会員2名、一般会員57の合計62名で活動しています。年齢別では、40代が中心とした分布となっております。</p> <p>さて、本年度の研修会では3名の講師陣による講演です。それぞれの立場から提言等を踏まえた話題提供があると思われまますので、参加者の皆様おかれましては、本日の研修会で得られた知見を実務や業務で活かさせていただければ幸いです。</p>      |
|   | <p>【講演Ⅰ】<br/>『検査できついたこと』<br/>川上 英二<br/>高知県土木部技術管理課技査</p> <p>1. 施工計画書の作成について、2. 検査で気づいた事項3. 労働災害について、それぞれ留意すべき事項など、具体的な例を示し、説明が行われた。事前の施工計画書を計画するにあたり、施工の安全性、品質、工期などを十分に理解し作成することで、品質の向上と生産性向上に期待できる。労働災害においてはコロナ感染症の影響で発生件数は減少した時期もあったが、近年では増加傾向にある。重大事故を起こした場合などは指名停止等の処分もあるので、留意して頂きたい。</p> |
|  | <p>【講演Ⅱ】<br/>『四国の道路インフラに関する最近の話題』<br/>河原 研治<br/>国土交通省四国地方整備 土佐国道事務所 副所長</p> <p>平成24年12月22日発生の笹子トンネル天井板落下事故を契機に、平成26年度より5年に1度近接目視による点検が義務かされた。道路橋およびトンネルの点検で評価ⅢおよびⅣに分類された構造物において、管理者が国、高速道路会社、政令指定都市等では修繕処置が高い確率で実施されているが、市区町村では50%を下回っている。点検は現在二巡目となっており、修繕対策は構造すると思われる。</p>                  |



### 【講演Ⅲ】

『コンクリート工の生産性向上に向けてやってきたこととやりたいこと』

橋本 親典

徳島大学大学院 社会基盤デザイン系教授

国交省発注の一般土木用コンクリートの荷下り時点でのスランプが生産性向上および過密度配筋等を鑑み 8 cmから 12 cmに変更された。品質に関しては従来通り、筒先については 8cm となっている。新技術の紹介では、加速度センサーと IC タグを wifi を使用して管理する実験において、型枠内の締固めの有効性について、また、生コンの荷下り時点の検査で空気量測定とスランプ試験が大きな手間がかかり、省力化の壁となっている。そこでアジテータードラムの容積とコンクリートの質量から空気量を測定する方法を研究委員会 (JCI 四国支部) で実施している。



### 【閉会挨拶】

山本 克彦見

株ワタリコンサルタント

高知県コンクリート診断士会顧問

当会の設立時は 20 名程度の小さな規模の会でしたが、皆様のお力添えで 60 名を超える組織に成長しています。コンクリートとは漢字で、「混擬土」と書きます。先人達の思いが伝わってきます。是非コンクリート診断士を取得された暁には、当会への入会をよろしくお願ひします。

### 会場写真

